

令和三年度

特待生選抜(保育者養成支援)

入学試験問題

国語

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 解答は解答用紙の解答欄にマークしなさい。
3. 解答用紙にある「マーク記入例」と「記入上の注意」をよく読みなさい。
4. この問題冊子は、十五ページあります。
試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

日本的なしつけや教育の特徴と言われている他者の気持ちへの配慮や感情移入能力の重視は、他者や権威への同調、あるいは単なる人間関係の調和や他者へのやさしさという価値の強調というだけでは汲み尽くされないさらに積極的な意義を有していると理解することが可能である。

たとえば、母親が、好き嫌いをして野菜料理を食べようとしないうち子どもを注意する際に母親自身や野菜の生産者である「お百姓さん」などの他者の気持ちに配慮するよう仕向けるといふ例を考えてみよう。

こうしたしつけを行う場合の母親の狙いは、子どもに母親自身や「お百姓さん」などの他者への同調や彼らとの関係を穩便に保つことを教えることではなく、多様な他者の視点を内面化し、さまざまな他者の視点から自分自身の欲求や思考や行為をヒハンの見つけることによつて自己の欲求や思考や行為を吟味し、真に状況に適つたものへと改善していく反省の大切さを学ばせることにあると解釈すべきではないだろうか。すなわち、ここでは「野菜を食べたくない」という自分の欲求を、母親や「お百姓さん」の観点から見つめ直し、それらの他者の観点を考慮に入れ、自己の既存の行為や欲求を問い直すということ子どもに教えようとしているのではないだろうか。

単に、権威者など特定の他者への同調や関係性の維持の必要性を教え込むことが目的であるなら、母親は自分の親としての権威に訴えかけるのみでよいだろう。また、遠くの見ず知らずの第三者であり、権力者・権威者とも言い難い「お百姓さん」との同調や関係性の維持自体に何らかの教育的意義を見出すことは困難である。むしろ、母親や「お百姓さん」といった、身近な、あるいは疎遠なさまざまな他者の視点を内面化し、多様な角度から当該状況における自分の思考や行為の是非を吟味・修正し、真に状況に適つた思考や行為を絶えず求めていくという意味での反省を行う能力、つまり自律的な思考や行為を行う能力を身に付けさせたいという半ば無意識の親の願い、および、こうした自律的能力のカクトクが人間の成熟へと至る道なのだという文化に潜在するアンモクリの想定が、このようなしつけの背後に存在すると解釈するほうが説得力があると言えよう。

加えて、日本の学校教育の現場では、一般に、他者の感情や思考を言語的に表明されずとも敏感に察知し読みとるために

必要な他者への感情移入能力のカクトクを非常に重視した教育が行われている。このことも、多様な他者の視点を内面化し、自己の思考や行為をさまざまな角度から吟味していく反省能力のカクトクとしての自律や成熟の理念が背後にあるということ念頭に置けば、その積極的意義を明瞭に理解できる。感情移入能力を鍛え、それを発揮できるようにすることは、自律や成熟に達するための必須条件の一つだと半ば無意識に考えられていると解釈することができるからである。

実際、感情移入能力の発揮によってさまざまな他者の視点を内面化し、多様な視点から自己のあり方を見つめ吟味する行為、すなわち「反省」や「自己ヒハン」の行為の重視は、日本のしつけや教育の特徴の一つだと言える。「日本の子育ては子どもに反省を促し、それにもとづいて努力することを重視する」傾向があると言われている。学校教育でも同様のことがシテキ^dされている。比較研究のシテキによれば、個々の児童・生徒たちの行為のあり方や学級に生じた問題などを児童・生徒同士で話し合い反省する場が、いわゆる「学級会」や「ホームルーム」「朝の会」「帰りの会」などというかたちで頻繁に設定され、教育活動の非常に重要な一部として認識されているのも、欧米の学校と比べた場合の日本の学校教育の顕著な特徴^cである。

(施光恒『本当に日本人は流されやすいのか』による。ただし、出題に際して、字句や表記の改変、段落の変更・省略などを施した箇所がある。)

問一 傍線部ア～ウの漢字の読みとしてみっとも適切なものを、解答群の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

(解答番号 ア|| 1、イ|| 2、ウ|| 3)

ア	穩便	[1]	いんべん	[2]	おんびん	[3]	おんべん	[4]	いんびん	[5]	いんべい
イ	既存	[1]	きそん	[2]	がいそん	[3]	いそん	[4]	かくそん	[5]	しそん
ウ	疎遠	[1]	とうえん	[2]	そくえん	[3]	そうえん	[4]	うえん	[5]	そえん

問二

傍線部 a～d の片仮名を漢字に直したときもつとも適切なものを、解答群の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

(解答番号 a || 4、 b || 5、 c || 6、 d || 7)

a	ヒハン	[1] 否判	[2] 比判	[3] 非判	[4] 悲判	[5] 批判
b	カクトク	[1] 獲得	[2] 穫得	[3] 確得	[4] 覚得	[5] 拡得
c	アンモクリ	[1] 暗黙理	[2] 暗黙利	[3] 暗黙裏	[4] 暗黙離	[5] 暗黙裡
d	シテキ	[1] 示適	[2] 指適	[3] 指摘	[4] 示的	[5] 示敵

問三

傍線部 A～C の意味としてもつとも適切なものを、解答群の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

(解答番号 A || 8、 B || 9、 C || 10)

A 感情移入能力

- [1] 自分の感情を相手にうまく伝える能力。
- [2] 感情にとらわれずに行動できる能力。
- [3] 相手の感情をうまくコントロールできる能力。
- [4] 相手の感情を思いやる能力。

B 吟味

- [1] そのものの本質を味わうこと。
- [2] 物事を念入りに調べること。
- [3] 対象となる物事の問題点をつくこと。
- [4] 自らの過ちに気づき修正すること。

C 顕著

- 〔1〕 際立って目につくこと。
- 〔2〕 大変分かり易いこと。
- 〔3〕 事実そのものであること。
- 〔4〕 推測すれば分かること。

問四

繰り返して例示される「お百姓さん」は解答群の中のどの例として挙げられたものか。もつとも適切なものを一つ選びなさい。

(解答番号

11

)

- 〔1〕 必要な他者
- 〔2〕 特定の他者
- 〔3〕 疎遠な他者
- 〔4〕 権力者・権威者
- 〔5〕 身近な他者

問五

破線部「多様な他者の視点を内面化し、自己の思考や行為をさまざまな角度から吟味していく反省能力」を身に付けた人の行為としてもつとも適切なものを、解答群の中から一つ選びなさい。

(解答番号

12

)

- 〔1〕 自分と関わりのある人が何を望んでいるかを考えながら自分の行為を決定できる。
- 〔2〕 身近な人、関わりの薄い人の区別なく、人々が望んでいることを考えて、独善的にならないよう、自分の行為を見直すことができる。
- 〔3〕 他の人の気持ちを考えながらも、それにとらわれることなく最終的には自分の信念に沿って自分の行為を決定することができる。

[4] 権力者・権威者の気持ちにおもねって、自らの行為を歪めようとする自分をヒハンの的に反省しながら、自らの行為を反省することができる。

[5] 「お百姓」に代表される、我々の生活を支えてくれている人々に感謝の念を抱きながら、常に自分の行動を見つめ直すことができる。

問六

日本の「学級会」「ホームルーム」「朝の会」「帰りの会」は、どのような事柄の事例として挙げられたものか。もっとも適切なものを、解答群の中から一つ選びなさい。

(解答番号

13

)

[1] 子どもに反省を促し、それにもとづいて努力することを重視すること。

[2] 人間関係の調和や他者へのやさしさという価値を強調すること。

[3] 自己の欲求や思考や行為を吟味し、状況に適ったものへ改善していく反省の大切さを学ばせること。

[4] 特定の他者への同調や関係性の維持の必要性を教え込むこと。

[5] 他者の感情や思考を言語的に表明されずとも敏感に察知し読みとる力を非常に重視すること。

二
一
次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

国境の長いトンネルを抜けると **A** であった。夜の底が白くなった。信号所に汽車が止まった。

向側の座席から娘が立つて来て、島村の前のガラス窓を落した。雪の冷気が流れこんだ。娘は窓いっぱいになり出して、遠くへ叫ぶように、

「駅長さあん、駅長さあん。」

明りをさげてゆつくり雪を踏んで来た男は、襟巻で鼻の上まで包み、耳に帽子の毛皮を垂れていた。

もうそんな寒さかと島村は外を眺めると、鉄道の官舎らしいバラックが山裾に寒々と散らばっているだけで、雪の色はそこまで行かぬうちに闇に呑まれていた。

「駅長さん、私です、御機嫌よろしゅうございます。」

「ああ、葉子さんじゃないか。お帰りかい。また寒くなったよ。」

「弟が今度こちらに勤めさせていた দিয়ে おりますのですってね。お世話さまですわ。」

「こんなところ、今に寂しくて参るだろうよ。若いのに可哀想だな。」

「ほんの子供ですから、駅長さんからよく教えてやっていただいて、よろしくお願いいたしますわ。」

「よろしい。元気で働いてるよ。これからいそがしくなる。去年は大雪だったよ。よく雪崩れてね、汽車が立往生するんで、村も焚出しがいそがしかったよ。」

「駅長さんずいぶん厚着に見えますわ。弟の手紙には、まだチョッキも着ていないようなことを書いてありましたけれど。」

「私は着物を四枚重ねた。若い者は寒いと酒ばかり飲んでるよ。それでごろごろあすこにぶつ倒れるのさ、風邪をひいてね。」

駅長は官舎の方へ手の明りを振り向けた。

「弟もお酒をいただきますでしょうか。」

「いや。」

「駅長さんもうお帰りですか？」

「私は怪我をして、医者に通ってるんだ。」

「まあ。いけませんわ。」

和服に外套がいのうの [B] は寒い立話を切り上げたらしく、もう後姿を見せながら、

「それじゃまあ大事にいらっしやい。」

「駅長さん、弟は今出ておりませんか？」と、葉子は雪の上を目捜しして、

「駅長さん、[C] をよく見てやって、お願いです。」

悲しいほど美しい声であった。高い響きのまま夜の雪から木魂こだまして来そうだった。

汽車が動き出しても、彼女は窓から胸を入れなかった。そうして線路の下を歩いている駅長に追いつくと、

「駅長さん、今度の休みの日に家へお帰りって、弟に言ってやって下さあい。」

「はあい。」と、駅長が声を張りあげた。

[D] は窓をしめて、赤らんだ頬ほおに両手をあてた。

問一 [A] には、題名にもつながる有名な言葉が入る。それは何か、もっとも適切なものを、解答群の中から一つ選
びなさい。

(解答番号

14

)

[1] 津軽

[2] 武蔵野

[3] 夜明け前

[4] 冬の日

[5] 雪国

問二

B D に入る人物の組み合わせで、もつとも適切なものを、解答群の中から一つ選びなさい。

(解答番号

15

)

- | | | | | | | | |
|-----|------|---------|------|-----|------|---------|------|
| [1] | B 島村 | C 若い人たち | D 葉子 | [2] | B 駅長 | C 弟 | D 島村 |
| [3] | B 駅長 | C 若い人たち | D 島村 | [4] | B 葉子 | C 若い人たち | D 駅長 |
| [5] | B 葉子 | C 弟 | D 島村 | [6] | B 駅長 | C 弟 | D 葉子 |

問三

破線部「夜の底が白くなった」という表現は、どのような情景を描写したものと想像できるか。もつとも適切なものを、解答群の中から一つ選びなさい。

(解答番号

16

)

- [1] 夜が明けて、景色が白々と明るさを帯びてきた情景を描写している。
- [2] 汽車の明りが、積もった雪を浮かび上がらせた情景を描写している。
- [3] いきなり目前に、雪が積もっている景色が現れたことを描写している。
- [4] 駅長の持った明りがホームに積もった雪に反射している様子を描写している。
- [5] 美しい景色が暗かった語り手の心に一筋の明るさをもたらした心の内を描写している。

問四

「弟」と呼ばれる人物は、現在どのような状況にあることが推測されるか。もつとも適切なものを、解答群の中から一つ選びなさい。

(解答番号

17

)

- 問五 傍線部「駅長に追いつくと」のとき、駅長はどのような動きをしていたと想像できるか。もつとも適切なものを、解答群の中から一つ選びなさい。
- [1] いまのところ特に変わったことはなく元気に仕事に励んでいる。
 - [2] 怪我をして療養のため寝込んでいる。
 - [3] 元気でいるが、寂しさで心を病みかけている。
 - [4] 泥酔して官舎にぶつ倒れ、ごろごろしている。
 - [5] ホームに立っているが、寒さのあまり早く部屋へ戻りたがっている。

(解答番号

18

)

- [1] 線路から離れ、汽車からもどんどん遠ざかっていった。
- [2] 線路に沿って汽車の進行方向に歩みを進めていた。
- [3] 線路に沿って汽車の進行方向とは反対の方向に歩みを進めていた。
- [4] ホームに立ったまま動かず、汽車を見送っていた。
- [5] 出発した、汽車を追って走っていた。

問六

この物語はだれの視点から描かれたものか。もつとも適切なものを、解答群の中から一つ選びなさい。

(解答番号

19

)

- [1] 島村という男性の視点から語られる一人称の物語。
- [2] 葉子という女性の視点から語られる一人称の物語。
- [3] 葉子、島村、駅長の視点から語られる三人称の物語。

- [4] 登場人物外の視点から語られる三人称の物語。
[5] 読み手である読者の視点で描かれた二人称の物語。

問七 この物語の作者によって書かれた作品を、解答群の中から一つ選びなさい。

- [1] 羅生門 [2] 斜陽 [3] 三四郎
[4] 伊豆の踊子 [5] 潮騒 [6] 暗夜行路

(解答番号

20

)

次の詩を読んで、後の問いに答えなさい。

ふしぎ

金子みすゞ

わたしはふしぎでたまらない、
黒い雲からふる雨が、
銀にひかっていることが。

わたしはふしぎでたまらない、
青いくわの葉たべている、
かいこが白くなることが。

わたしはふしぎでたまらない、
たれもいじらぬ夕顔が、
ひとりではらりと開くのが。

わたしはふしぎでたまらない、
たれにきいてもわらって、
あたりまえだ、ということが。

問一 この詩で、用いられていない技法を解答群の中から一つ選びなさい。

(解答番号

21

)

- [1] 反復
- [2] 倒置法
- [3] 体言止め
- [4] 対句
- [5] 擬人法
- [6] 七五調

問二 この詩の二連で、意図的に省略されていると思われる詞を、解答群の中から一つ選びなさい。

(解答番号

22

)

- [1] 名詞
- [2] 動詞
- [3] 形容詞
- [4] 副詞
- [5] 助動詞
- [6] 助詞

問三 問二で解答したような省略がなされた理由としてもっとも適切なものを、解答群の中から一つ選びなさい。

(解答番号

23

)

- [1] ふしぎであるという気持ちを強調するため。
- [2] 詩全体のリズムを整えるため。
- [3] 読者の想像できる余地を広げるため。
- [4] 難しい表現を伝わりやすく平易にするため。
- [5] 鮮やかな色をイメージできるようにするため。

問四 第四連はそれまでの連とは大きな違いがある。それは何か、もっとも適切なものを解答群の中から一つ選びなさい。

(解答番号

24

)

- [1] 第四連だけ色が使われていない。
- [2] 第四連だけふしぎを感じる対象が人間に変わっている。
- [3] 第四連だけ他の連と比べて読みのリズムが異なっている。
- [4] 第四連だけ作者の思いが語られていない。
- [5] 第四連だけふしぎなことが明らかにされていない。

問五

この詩の作者である金子みすゞによって書かれたものではない作品を、解答群の中から一つ選びなさい。

(解答番号

25

)

- [1] 君死にたまふことなかれ
- [2] 大漁
- [3] こだまでしようか
- [4] わたしと小鳥と鈴と
- [5] 草の名

四

四文字熟語について、次の問いに答えなさい。

問一 アくウの（ ）に入るもつとも適切なものを、解答群の中からそれぞれ一つずつ選び四文字熟語を完成させなさい。

(解答番号 ア|| 26、イ|| 27、ウ|| 28)

ア	明鏡（ ）	[1]	美麗	[2]	光悦	[3]	審美	[4]	写実	[5]	止水
イ	呉越（ ）	[1]	独州	[2]	耽溺	[3]	超量	[4]	同舟	[5]	尊重
ウ	快刀（ ）	[1]	卓越	[2]	乱麻	[3]	心技	[4]	潔斎	[5]	斬撃

問二 アくウの四文字熟語の意味でもつとも適切なものを、解答群の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

(解答番号 ア|| 29、イ|| 30、ウ|| 31)

ア 岡目八目

- [1] 他者の意見を聞かずに勝手に判断を下すこと。
- [2] 態度が冷淡で他者に対してよそよそしいこと。
- [3] どこまでもものごとくにこだわってしまうこと。
- [4] 傍から見ている方が、正しい判断ができること。

イ 朝三暮四

- [1] 小さな違いにこだわり、本質が変わらないのに気が付かないこと。
- [2] あらゆるものが、変化し、移り変わることを。

- [3] 議論を重ねたうえで結論を出そうとすること。
- [4] 先祖を敬い、供養を欠かさないこと。

ウ 汗牛充棟

- [1] 努力を重ねて、自らの夢を実現させること。
- [2] 他者のために自己を顧みず支援すること。
- [3] 労働環境が大変に厳しいこと。
- [4] 蔵書の数が非常に多いこと。